

# 農業会議通信



- 岩手県農業会議定例総会
- 紫波町・遠野市農業委員会全国表彰
- 本年度第一回常任会議員会議開催
- 岩手県担い手育成総合支援協議会設立
- 市町村農業委員会会長会議開催
- 本県選出国會議員に政策要請

## 今月の一言

### 『産地づくりが原点』

今年度は新しい「食料・農業・農村基本計画」の取り組みがスタートしました。これまでも行政を始め団体や各種組織等に数多くの計画が樹立されています。住民の声を十分に反映した計画でも実績として評価されない場合も多々ありました。今回は革新的な項目も多く、基本方針に基づく具体的な行動計画の策定に多くの地域住民や農業経営者が参画する取り組みが不可欠です。

日本の総合食料供給基地として本県農業の地位を維持発展させるには、広く国民に信頼される安全で安心な食料生産ができる産地作りが喫緊の課題です。

豊かな農畜産物を高度な加工・流通手段で消費者の皆さんにお届けすることが食料産地の役割です。関係機関・団体が丸とあって元気な産地育成を推進する必要があります。

岩手県農業会議  
会長 中野昌造

## 岩手県農業会議定例総会

### 平成17年度事業計画承認

去る、3月24日に盛岡市の「エスポワールいわて」において、第八十回総会が開催されました。平成17年度事業の重点事項としてまず、常任会議委員と農業委員会総会の活性化で農業委員系統組織の位置付けを明確にする

こと。次に新しい「食料・農業・農村基本計画」に基づいて、農地の有効利用と経営力に富む担い手の確保を重点的に行うこと。更に、財政難の中の負担金、拠出金等をより一層、効果的



に活用するとともに、統合交付金等関係予算の確保に努めること。加えて、本県農業・農村の実態を踏まえた革新的な建議・要請活動を行政等に積極的に展開することの4項目が承認されました。

また、「いわての農地と担い手を守り活かす運動」を全県下の農業委員1110名が巡回活動を展開するなど積極的に行うことや市町村合併の進む中で第19回農業委員統一選挙が適正に行われるとともに女性、青年農業者が登用されるよう活動を展開することが決議されました。

### 農業会議新体制で業務の刷新

農業会議は、昨年、創立50周年を迎えました。これまで農業・農村を取り巻く社会環境の変化に機敏に対処した組織再編や業務の見直し等に取組んできたところです。今後も県の行政改革プログラムに準じた業務の効率化に取り組んでいくこととしていますが、昨年の組織再編に続いて、この春に大幅な

業務分担替えを行いました。法的業務や研修指導・農業者組織の運営等多様な業務があることから、専属化や情報の共有化が疎かにならないように定期的な業務分担異動をすることとし

ました。

異動3カ月目を迎えて職員一同、新しい視点で各業務に取り組んでいますので、より一層のご指導ご鞭撻をお願いします。

### 紫波町・遠野市農業委員会全国表彰

### 全国情報会議

去る、4月6日に全国情報会議が東京都文京区の椿山荘で開催されました。この会議は毎年度開催されているもので、農業委員会系統組織として全国の農業委員がそれぞれ担当地区の住民や農業経営者に最新の情報を提供する手法や全国農業新聞の記事や全国農業図書の内容の検討、さらに普及方法等について討議決定するものです。

反省懇談会では、全国の農業委員会に負けない取り組みを創意工夫して今年度はなお、一層の情報提供を行うことを申し合わせました。

この席で、全国農業新聞の普及部数の多い農業委員会が表彰されますが、本県から、紫波町農業委員会が普及部数で第6位、普及率で第3位となり、遠野市農業委員会が普及部数で第8位、普及率で第8位となり堂々の上位入賞で表彰されました。

また、農業委員会だよりコンクールでは北上市農業委員会が全国農業会議所会長賞を受賞するなど31市町村農業委員会が表彰されました。



## 本年度第一回常任会議員会議開催

### 県農林水産部長挨拶

去る、4月11日に盛岡市の「エスポワールいわて」において、第295回常任会議員会議が開催されました。来賓として出席をした県の今泉敏朗農林水産部長から「本県農業の振興に尽力を頂き感謝する、本年度予算が減額となつているが国民の食糧確保は重要であり、その根幹は農地と担い手である。」

農地の法的許認可は厳格にお願いする。農業委員選挙の年であるが女性、青年農業者の登用が大切である。」と祝辞がありました。

議事は農地法第4条、第5条の規程に基づく意見聴取のほか、本年度の当会議の開催日程と県農業振興課・農業会議の新体制の紹介を行い、平成17年度の農林水産部の施策推進方針が紹介されました。「本県が経済的に自立していくために、本県の農林水産業を世界と十分に太刀打ちできる、たくましい産業に転換していくとともに、農山漁村の豊かな暮らしを確保していくことが重要である」とした基本的な考え方が示されました。

また、農業会議からは法定諮問事項に関する審議方法を諮問前と諮問後の現地調査を充実することと面積にかかわらず個別説明や地方振興局の説明等もできるように改正の説明を行いました。

## 岩手県担い手育成総合支援協議会設立

### 会長に 農業会議会長就任

去る、4月22日に盛岡市の第二産業会館において、岩手県担い手育成総合支援協議会の設立総会が開催され、会長に農業会議会長 中野昌造が選ばれました。

本県としても、新しい「食料・農業・農村基本計画」に基づく、経営安定対策や水田農業改革の集落ビジョンの明確な担い手を早急に育成・配置する必要がある

り、関係機関・団体が一丸となって取組むために設立したもので農業会議が事務局となります。

目的は、先ず市町村長が計画認定をする認定農業者を現在の約7000人を10,000人台に拡大することと農業法人等の自立した経営体を育成することです。また、水田農業を担う集落経営体を組織化して農地の利用集積や多角化経営で多彩な担い手を確保することが重要かつ緊急的な取り組みです。

市町村にも地域担い手育成

総合支援協議会が22ヶ所(30市町村)ほど設立される予定ですので、一体となつて総合食料供給基地としての本県農業を担う農業経営者の確保に向けて「担い手コールオン3運動」を全県的に盛り上げて積極的に進めることとしています。



### タイ国農業研修生が 竹内副知事を表敬

去る、4月22日にタイ国から2人の女性農業研修生が来県して農業会議事務局長の案内で県庁を訪れ、竹内副知事と親しく懇談をしました。シリボーンさんとナルモンさんからは岩手農業の経営や流通を学ぶとともに、多くの食文化にも触れたいと意気込みが語られました。

副知事から「本県は、日本の食料供給基地として安全安心な農畜産物が数多く生産されていますのでタイ国の農業経営に活かしてください。」と励ま



しの言葉を頂きました。

岩手県国際農友会（事務局・農業会議）は今年で13年目、49人目の研修生を迎え、初の女性を迎えることになり、江刺市の及川互さんと紺野啓さんの農場が来年2月末までのホームステイ先になります。

### 市町村農業委員会 会長会議開催

#### 本年度の行動計画承認

去る、5月18（19）日に盛岡市つなぎ温泉「ホテル大観」で58農業委員会の会長が集う最後の会議を開催しました。3月の定期総会で承認された本年度の事業計画の具体的な行動計画が承認されました。

特に、全農業委員の活動が期待されます。「いわての農地と担い手を守り活かす運動」は農地の利用集積を活発化するとともに地域に必要な多彩な担い手を育成・配置する農業・農村の根幹となる行動を担当地区ごとに展開するもので、その趣旨が十分理解されました。また、情勢変化に機敏に対応する情報の提供や老後の生活保障に農業者年金の加入促進等も了解されました。

会議終了後には、全国農業会議所の

中村裕専務に、中央情勢の報告をお願いし「食料・農業・農村基本計画」の見直しの検討過程等の貴重な情報を得ることができました。

水沢市、宮古市、宮守村農業委員会の会長からは活動成果の報告がありました。



### 本県選出国會議員に 政策要請

#### 全国農業委員会会長大会決議項目

去る、5月26日に東京都の第一衆議

員会館地下2階会議室で、本県選出国會議員と農業会議・農業委員会の会長が政策要請懇談会を開催しました。要請内容は同日、全国農業委員会会長大会で決議された、新しい「食料・農業・農村基本計画」の実現に向けた施策展開や財源確保等について、特に、本県農業に係わりの大きい項目を要請しました。58農業委員会の会長で要請懇談するのは最後であり、7人の国會議員本人と親しく懇談が出来ました。各議員から農業の改革にあたり農業委員の活躍に期待していると励まされました。



## 経営構造対策の 事業計画を承認

去る、5月23日に盛岡市の「エスポワールいわて」で、岩手県経営構造対策推進委員会（会長・農業会議会長）が開催されました。行政と関係団体で構成し、農業会議が事務局を預かる推進委員会です。経営構造対策事業等、

国の助成事業で整備された施設の有効利用や新たに取組む地域の合意形成手法等について、アドバイザー派遣や専門家を招いての研修会等を行う平成17年度の事業計画が承認されました。事業実施は元より実施後の点検評価に重点をおいた指導が重要視されており、目標達成に向けた調査と改善指導を行うこととしています。

## 7月10日は農業委員 統一選挙の投票日

県内43市町村において、農業委員会法に基づく3年に一度の選挙が行われます。市町村合併の進む中での新しい体制づくりが円滑に実施されるよう各選挙管理委員会が準備を進めています。各農業委員会においても遊休農地の

解消や担い手への農地の利用集積を積極的に進めており、その主力となる農業委員の適正配置が重要です。また、農地の法的業務に加えて担い手育成対策も大きな業務になっていますので、女性や青年農業者の登用で幅広い活動が出来るよう選挙・選任を組み合わせる必要が広がります。



### 1 通信員取材研修（5月12～13日）

全国農業新聞岩手県支局の地域毎の通信員が雫石町の農業法人「花工房らら倶楽部」で取材と写真撮影の実習研修を行いました。わが町の宣伝活動が期待されます。

### 2 グリーン・ツーリズム推進協議会 計画承認（5月25日）

農業会議が事務局を預かる岩手県グリーン・ツーリズム推進協議会の総会が開催されました。本県農村の宣伝・招聘活動に民間活力を十分に生かした事業が展開されます。

### 3 農業者年金新任者研修 （5月24日）

農業経営者の老後生活を保証する農業者年金加入は不可欠です。農業委員会と農協職員の加入活動が重要です。新任職員の

基礎研修も終わり活躍が期待されます。

### 4 土地区画整理事業計画聴聞会 （5月31日）

盛岡市の上厨川地区の土地区画整理事業計画について現地調査と聴聞会を開催しました。同意率100%近い地区で商工団地と住宅団地が効果的に配置される計画です。

### 5 農業委員会担当会議 （6月3日）

会長、事務局長会議に続いて、

### 6 担い手確保に全力（6月7日）

岩手県担い手育成総合支援協議会（事務局 農業会議）は各市町村・農協・地方振興局・農業改良普及センターの担当職員が日本の総合食料供給基地としての、本県農業を維持発展させるために一丸となって認定農業者や農業法人・集落営農を育成することを申し合わせました。



1 政策支援対象の担い手とは

平成19年から明確な担い手に様々な支援があると聞きました。が、どのような農業者が明確な担い手ですか。(前沢町 M・M生)

●具体的には、国がこの秋に向けて検討しているようですが、現在の新しい「食料・農業・農村基本計画」によるとまず、認定農業者、そして農業法人や集落営農経営体が考えられます。(経営部 村上次長)

2 集落営農とは

経営規模の小さい農家は集落営農に参加するように進められますがどのようなものですか。(紫波町 Y・M生)

●集落営農とは、効率の良い生産と農地の有効利用を図る仕組みで、小規模農家や兼業農家でも担い手になれる組織です。様々な形態がありますが、稲作の合理化による余剰労働力を活用して野菜を導入している例もありますし、成熟度によって法人化するという発展も望めます。特に担い手のいな

3 法人化で農業者年金はどうなるの

農業者年金に加入していますが、有限会社に登記したいと考えています。この年金はどうなりますか。(盛岡市 S・T生)

●法人経営になりますと経営主の場合は農業者年金を継続するか、厚生年金に加入するか、選択出来ます。加入した場合は脱退となります。従業員は厚生年金に加入することになりますので、農業者年金は脱退となります。いずれも一時金は支払われませんが、将来老齢年金として支給されます。(経営部 菊池主事)

4 10アール農家はいくら稼げるの

岩手県でも10アールの農地で農家になれますか。(盛岡市 K・H生)

●これまでは、構造改革特区に認められていましたが、今年改正され9月から施行される予定の農地法施行規則では遊休農地が相当程度存在する区域など一定条件のもとで10アールの農地を借りても所有しても農家になれる方向で検討されています。詳しくは最寄の農業委員会事務局にお尋ねください。(総務・農地部 菅原調査役)

6月から9月の主な行事

- 6月10日 第297回常任会議員会議 (盛岡市 エスポワールいわて)
- 6月22日 いわて農業者トップスクール入学式 (盛岡市 岩手大学農学部)
- 6月24日 農業者年金業務担当者会議 (盛岡市 サザンパレス)
- 6月28日 岩手県農業法人協会総会 (盛岡市 第二産業会館)
- 7月6日 農業委員会農地等業務担当者基礎研修会 (盛岡市 自治会館)
- 7月11日 第298回常任会議員会議 (盛岡市 エスポワールいわて)
- 8月2日 第81回岩手県農業会議臨時総会 (盛岡市 サンセール盛岡)
- 8月上旬 いわて農業者トップスクール公開講座 (水沢市)
- 8月10日 第299回常任会議員会議 (盛岡市 エスポワールいわて)
- 8月中旬 いわて農業者トップスクール公開講座 (二戸市)

編集後記

●農業会議は業務分担を大きく変えました。2ヶ月を経過して起動に乗ってきました。新しい発想が期待できます。

●補助金が交付金に変わりました。また、事務の流れがスムーズに行かないようですが改革とは難儀するものです。達成感に期待して頑張りましょう。

●久慈の田村さん達がミルクプラントを経営して「ゆめ牛乳」を牧場の味として消費者に届ける夢を実現しました。県内でもこうした法人経営者がどんどん増えていきます。こうした商品を東京銀座の「銀河プラザ」で一同に会したいものです。

●晩霜も無くさくらんぼやりんごの生育も順調のようです。長雨や「やませ」が来ないよう祈願でもしたい気持ちです。

●ある会議で銀座の銀河プラザで人気の高い「岩手路季節弁当」を味わいました。朝一番の新幹線で歌舞伎座の開場前の販売に間に合わせるロマンに加え、岩手素材の良さが長期人気を保つ原因を確認しました。

●行政が農林水・商工等の他分野との連携で産業や観光等の活性化に取組んでいるようです。関係団体や各経営体の自主的且つ革新的な連携戦略が必要です。

●いわて農林水産振興協議会は、改革から攻めの姿勢に転じた取り組みや革新的な担い手連携・積極的な産地作りを事業計画に組み入れ成果が期待されます。(由)